

## NACSIS-ILLのBLDSC依頼機能について

ILLシステムからBLDSCに複写・貸借を依頼する場合の留意点、ならびにこれまでにご案内した事項についての変更点をお知らせします。

### 1. 利用する前に

#### 1. BLDSCへの利用者登録申請

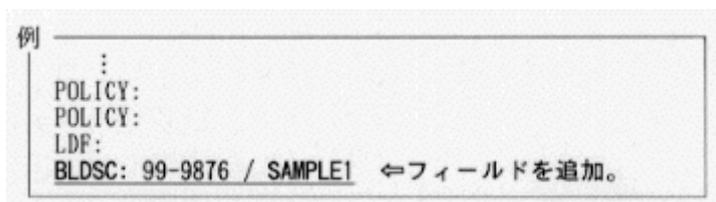
この機能を利用するには、BLDSCの利用者登録が必要です。国内の代理店を通じてユーザコードとパスワードを取得してください。その際は必ずNACSIS-ILLを利用してBLDSCに依頼する事をお伝えください。貸借等の特別なサービスを利用する場合には別途申請が必要になりますので、その旨代理店にお申し出ください。

#### 2. ユーザコードとパスワードの入力

BLDSCからユーザコードとパスワードの通知があったら、ILLシステムのユーティリティ業務中の参加組織メンテナンスで、それらを参加組織レコードに入力します。

参加組織修正画面で、フィールドを追加し、以下のように入力してください。

BLDSC:(ユーザコード)△/△(パスワード)



入力した結果は参加組織の時差更新によって確定しますので、翌日から利用できます。この値が入力されていない場合は、依頼を行ってもエラーになります。

なお、機関内の複数の参加組織で1つのユーザコードを使用する場合は、各組織で同じユーザコードとパスワードを入力してください。

ユーザコード・パスワードの管理は各参加組織の責任で行ってください。

### 2. 画面の変更

「複写依頼業務選択」画面に「10. 外部依頼中」を、「貸借依頼業務選択」画面に「14. 外部依頼中」をそれぞれ追加します。

業務選択画面

貸借依頼業務選択

>:

1. 準備中	
2. 未処理	
3. 新着照会	
4. 照会	
5. 回答待	
6. 発送	
7. 到着処理中	
8. クレーム未処理	
9. クレーム回答待	
10. 借用中	
11. 返送	
12. 更新請求	
13. 返却クレーム未処	
14. 外部依頼中	

新規依頼

31. 図書	
32. 雑誌	

複写依頼業務選択

>:

1. 準備中	0件	21. 依頼検索
2. 未処理	6件	22. 依頼検索 (バ
3. 新着照会	0件	
4. 照会	2件	
5. 回答待	0件	
6. 発送	3件	
7. 到着処理中	1件	
8. クレーム未処理	0件	
9. クレーム回答待	1件	
10. 外部依頼中	1件	99. 複写依頼業務

1件      99. 貸借依頼業務終了

----- < 督促メッセージ欄 > -----

### 3. AMLID/HMLID、および略称の扱い

BLDSCに対しては、参加組織IDのかわりにコード「BLDSC」を使用します。また、BLDSCの画面上の略称は「BLDSC」です。

「準備中」の状態でBLDSCを候補館としたい場合は、HMLIDに「BLDSC」と入力して下さい。なお、その際は以下の点にご注意ください。

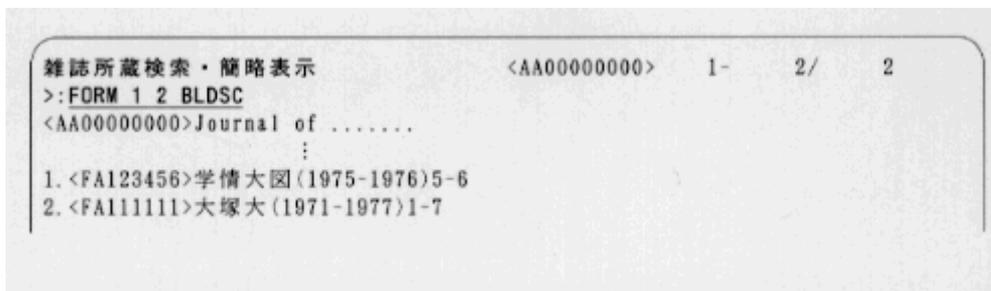
1. BLDSCは、1つのレコード中で複数回指定できません。
2. 複数のHMLIDを入力する際、BLDSCを指定してORDERコマンドを発行すると、BLDSCは何番目の候補館であっても自動的に最終候補館になります。

### 4. FORMコマンドのオペランドの追加

所蔵検索・簡略表示画面、および所蔵詳細表示画面で発行するFORMコマンドのオペランドとして、「BLDSC」を設けます。このオペランドは、複数館指定時の候補館数に含まれます。

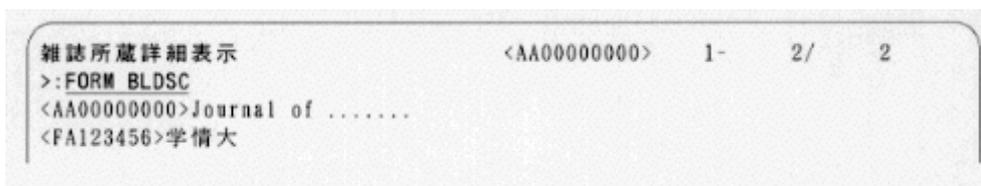
所蔵検索・簡略表示画面で、FORMコマンド発行時に通常の参加館とBLDSCを共に指定する場合は、必ずBLDSCを最後に指定してください。

次図の場合、第1候補館は学情大、第2候補館は大塚大、第3候補館がBLDSCとなります。



また、所蔵詳細表示画面でFORMコマンドを発行する際にBLDSCオペランドを指定すると、第1候補館は所蔵が詳細表示されている参加組織、第2候補館はBLDSCとなります。

下図の場合、第1候補館は学情大、第2候補館がBLDSCとなります。



## 5. データに関連する注意事項

BLDSCに依頼する際の転送データ作成対象フィールドは以下の通りです。

BIB,VLNO,PAGE,YEAR,ARTCL,  
CLN(BLDSCのもののみ),CMMNT(BLDSC依頼時のもののみ)

これらのフィールドに漢字があると、転送時にエラーとなります。

## 6. 貸借の扱い

ニュースレターNo.40で、BLDSCの国際貸借サービスを利用する場合、別途ブリティッシュ・カウンシルのメンバー登録が必要であるのご案内しましたが、必要なのはブリティッシュ・カウンシルのメンバー登録ではなく、BLDSCの貸借サービス利用登録ですので訂正します。(なお、詳細は代理店におたずねください。)この場合、資料は各図書館に直接送付されます。借用時の資料の管理は各図書館で責任を持って行ってください。

## 7. データ転送のタイミング、およびコマンドの発行制限

BLDSCに依頼するデータの転送は、当面の間、BLDSCに依頼した翌日の午前中に行います。それまでは「未処理」の状態なので、CALLBACKが可能です。

なお、BLDSC宛レコードの転送作業中は、「外部依頼中」のレコードを操作できない場合があります。この場合、エラーメッセージが表示されます。

## 8. 教育用システムの利用

教育用システムでは、BLDSCを依頼館とするレコードの状態遷移等を、業務用と同様のタイミングで行います。ただし、BLDSCへのデータ転送は行いま

せん。

## 目録システム機能強化(第2期)の実施

ニュースレターNo.42 でお知らせしました目録システム機能強化の第2期分について、平成6年2月25日(金)から運用を開始しています。

ここで今回の機能強化項目について注意事項をお知らせします。

### 1. 図書書誌レコードへの件名のヨミフィールドの追加

今回の運用開始に先立って件名のヨミのメンテナンス作業を既存データに対して実施しましたが、現在作業が終了しているのは総合目録データベースについてのみです。

すなわち、参照MARCデータの件名については、今のところ件名にヨミが付与されていません。これに対するメンテナンスは今後順次実施していく予定ですので、流用入力する場合には、当面各参加館でヨミを付与していただくようお願いいたします。

### 2. 雑誌書誌レコードへの件名フィールドの追加

雑誌書誌レコードについては、これまで件名データが入力できなかったこともあり、総合目録データベースには件名データが存在していません。したがって、件名データの入力にあたっては各参加館で対応していただくこととなります。

参照MARCでは従来から件名をデータとして保有していましたので、今回の機能追加によって表示されるようになり、流用入力時には総合目録データベースにも反映されます。しかしながら、JAPAN/MARCについてはデータ整備が終了していないため、件名及び件名のヨミともに現在は表示ができません。最終的なデータ公開のスケジュールは、オンラインニュース画面でお知らせいたします。

### 3. JP(S)への国立国会図書館所蔵情報の表示

この機能についても、JAPAN/MARCに対するデータ整備が終了していないため、現在は表示すべきデータが作成されていません。データ公開については前項と同様、オンラインニュース画面でお知らせします。

### 4. VTの種類コードの統合

総合目録データベース及び参照MARCともにデータのメンテナンスは終了しています。ただし、LCMARC/Serialsについては更新機能の調整が終了していな

いため、最新データは旧来のコードで表示されることがあります。流用入力する場合にはご注意ください。

## JAPAN/MARC遡及データの導入

国立国会図書館で作成されたJAPAN/MARCの遡及分のうち、昭和23年～30年の分について、平成6年1月27日に参照MARCに反映いたしました。今回導入したのは、国立国会図書館が昭和23年から30年にかけて受け入れて整理した もの、及び前回導入分(昭和31年～43年分)に含まれなかった継続出版物・多巻物で、収録件数は112,313件です。

これによって、国立国会図書館創設以降の書誌データは全て参照MARC化されたこととなります。今後は、明治期・大正期・昭和前期がMARC化されていく予定ですので、頒布され次第導入する予定です。

## ILLシステム機能向上の運用開始時期について

ニュースレターNo.42でご案内しました機能向上について、3月25日より運用を開始する予定です。なお、外部依頼機能については、実際にデータ転送を行うのは4月1日にBLDSCに依頼されたものからとします。

## 個別版CD-ROMモニター募集について

「学術情報センターニュース」No.25 で紹介しました、個別版CD-ROM配布の本格サービス実施の参考とするため、平成6年度のモニターを募集いたします。なお、本格サービスにつきましては平成7年度に開始したいと考えております。

### 1. モニターの概要

個別版CD-ROMのモニターを、10館募集いたします(うち5館は平成6年10月からの実施となります。前半・後半のモニター館、その実施時期は学術情報センターで決定します)。

センターが作成し送付する各モニター館の個別版CD-ROMを、実際に利用しながら評価していただき、本格サービス実施の参考にすることが目的です。モニター館には、前半には検索機能等を中心に、後半にはカレントデータの処理も含めて評価をお願いします。

なお、個別版CD-ROMの利用料金については、モニター期間中に限り無償とします。

### 2. モニターの応募条件

1. 図書、雑誌を含めて、学術情報センターの目録システムに登録済の所蔵件数が概ね2万件以下で、今後継続的に登録すること。
2. 応募は、機関全体でも、学部単位でもかまいません。複数の分館、大学と短大の集合というような単位でも結構です(この場合、別紙の備考欄に補記して下さい)。
3. CD-ROMを使用できる環境があること。

対象OS及び機種は、

- NEC-PC9801VX以降に発売され、MS-DOSバージョン3.3以上のOSを搭載しているもの
- IBM-PCまたは100%互換機でDOS/Vバージョン5.0以上のOSを搭載しているもののいずれかを有し、かつ、それぞれの機種に対応する
- CD-ROM装置

が必要です。

### 3. モニターの方法

3カ月毎にCD-ROM(1枚)をセンターで作成し送付する予定です。最初の回に検索システムと利用マニュアル一式を提供します。

評価方法をCD-ROM送付時に同封しますので、評価内容等を報告していただきます。

カレントデータの処理機能をあわせて利用するモニター館には、別途カレントデータ処理システムと操作手順書を送付します。

#### 4. モニターの応募方法

ご希望の図書館は、別紙申込書に必要事項を記入の上、応募して下さい(前後半ともに受け付けます)。応募件数が多い場合、学術情報センターで諸条件を検討した上で決定いたします。

申込み先:学術情報センター事業部目録情報課

問合せ先:専門・電子情報係(TEL:03-3942-6987,8)

締切り :平成6年3月24日

## JAPAN/MARCにおける分類コードについて

現在参照ファイルとして使用しているJAPAN/MARCの中の「日本十進分類表 新訂8版」(NDC8)に、一般に通用しているNDC8と少し異なる分類コードがあるのではないかという問い合わせがありました。

国立国会図書館では、分類作業等の都合から、NDC8とは異なる独自の分類コードを設けたり、収めるべき資料の範囲を変更したりしています。

そこで、以下にNDC8と国会独自の分類の部分との主な相違点を掲載します。なお、詳細は「全国書誌通信」の86、87号に掲載されていますので、そちらも参照してください。

### 0 総記

- 010.2 図書館史 (新設項目)  
地理区分して用いる。なお、個々の図書館の歴史は016/018に収める
- 019.2 読書指導・読書記録  
学校教科における読書指導は375.8に収める
- 027.38 個人著述目録・著作年譜  
個人伝が289に分類される人の著述目録・著作年譜はここに収め、特定主題のもとに分類される人の著述目録・著作年譜は、それぞれの主題のもとに収める。
- 049 雑著  
049.1/.9に展開し、言語区分をして使用する
- 051 逐次刊行物[日本語]  
次のように展開している
  - .1 学術紀要・報告
  - .2 調査研究資料
  - .3 総合評論誌
  - .4 時事・情報・外事誌・グラフ誌
  - .5 郷土誌
  - .6 大衆・教養・娯楽誌・漫画誌
  - .7 婦人・家庭誌
  - .8 青少年・学生誌、児童誌
  - .9 その他
- 070.2 歴史・事情(新設項目)

### 1 哲学

- 102.8 哲学者列伝(新設項目)
- 104.9 雑著(新設項目)
- 121.02 通史[日本思想](新設項目)
- 130.2 通史[西洋哲学](新設項目)
- 140.2 心理学史(新設項目)  
一般通史として使用する。心理学者の個人伝については289に収める
- 149 応用心理学  
\*の注記のうち、「もし…」以下は採用しない

### 2 歴史

- 202.5 考古学  
個々の遺跡・遺物に関する資料は、各時代のものも全て、その国の考古学のもとに収め、一地方史、一時代史としては扱わない。ただし、一地方にある遺跡遺物の一覧は、その地方の歴史のもとに収める
- 210.18 対外交渉史  
明治以前までの通史はここに収め、明治以後のものについては、319.1に収める
- 220 アジア史、東洋史  
形式区分を用いるときは「0」を重ねる
- 222.017 災異史(新設項目)
- 222.018 渉外史(新設項目)
- 288.4 皇室  
皇室、王室の個人伝は、日本の皇室のみ288.4/288.44を使用する
- 289 個人伝記

次のように展開している

- . 1 日本人
- . 2 東洋人
- . 3 西洋人

### 3 社会科学

#### 314. 145 議事総覧[衆議院]

次のように展開している

- . 1451 本会議議事録
- . 1452 委員会速記録
- . 1453 議案
- . 1454 請願
- . 1455 陳情
- . 1456 報告書
- . 1457 法律案
- . 1458 予算
- . 1459 決算

#### 314. 155 議事総覧[参議院]

上記と同じ

#### 317. 8 植民地政策

支配国によって地理区分をする

#### 318. 6/. 7 地方開発行政/都市問題・都市政策

特定地域に関するものは318. 2のもとに収める

#### 320. 9 法令集・判例集

判例集を削除

#### 320. 98 判例集(新設項目)

ここには一般判例集、判例解釈を収め、特定主題のものはその法律のもとに

098を付して細分する

#### 326. 35/. 36 犯罪社会学/犯罪現象

この項目は採用せず、368. 6に収める

#### 327. 209 訴訟記録[裁判記録](新設項目)

#### 328 諸法

\*の注記のうち、「もし…」以下の部分は採用しない

#### 336. 6 生産管理、生産工学

336. 6/. 69は採用せず、509. 6へ収める

#### 336. 7 営業管理[業務管理]、マーケティング

販売管理を項目追加する。「マーケティング」は削除し、675へ収める

#### 336. 71/. 79

これらの項目は採用せず、673/676へ収める

#### 338. 12 金利、利子、利廻、利殖

利殖」については338. 18へ収める。注記の\*は採用しない

#### 338. 18 利殖(新設項目)

投資一般、金儲け法などもここに収める

#### 338. 7 庶民金融、消費金融

クレジットカードもここに収める

#### [359] 各種統計書

この項目は採用せず、それぞれの主題のもとに収める

#### 366. 32 労働時間、休日、週休二日制、有給休暇、帰休制度

育児休業についてもここに収める

#### 366. 8 各種の労働・労働者

外国人労働(者)、派遣労働(者)もここに収める

#### 370. 35 名簿[教育]

全国大学一覧については377. 035に収める

#### 375 教育課程、学習指導、教科別教育

生活科についてもここに収める

#### 375. 9 教科書

375. 93/. 98は375. 3/. 8のように科目別に細分する。参考書

等については375. 3/. 8の各科目に収める

#### 378. 18 点字法、点訳奉仕

視覚障害者のための録音奉仕、拡大写本に関するものはここに収める

### 4 自然科学

#### 402. 1 日本科学史

次のように展開している

- . 1 日本科学史
- . 105 江戸時代[蘭学、洋学]
- . 106 明治以後

#### 402. 9 科学探検・調査

次のように改める。T 科学探検・調査、自然誌 \*地理区分

#### 409 科学技術政策・行政(新設項目)

#### 410. 2 数学史(新設項目) \*地理区分

#### 450. 98 自然災害誌(新設項目) \*地理区分

#### 451. 33 成層圏:オゾン層、電離層

「電離層」については450. 12に収める

#### 491. 69 体質学、素質

遺伝病についてはここに収める

#### 492. 907 看護教育(新設項目)

「看護婦試験」に関するものはここに収め、492. 9には収めない

#### 494. 5 腫瘍、肉腫、癌

化学療法、放射線療法もここに収める

494.6 局所外科学  
この項目は採用せず、494.2に収める。ただし、494.62/.67は採用する

495.52 産科手術(新設項目)  
娩出手術、人工妊娠中絶、帝王切開等を収める

## 5 技術

507.2 工業所有権  
個々の産業・製品についての工業所有権についてはそれぞれのもとに収める

520.87 建築図集・写真集(一般、個人)  
個々の図集、写真集についてはそれぞれの主題のもとに収める

521.6 近代:明治・大正・昭和時代 1865-  
日本洋風建築史については523.1に収める

523.1 日本[西洋の建築]  
個々の歴史的建造物については全て521.8に収める

538.68 ジェット機、ロケット、ミサイル  
「ミサイル」の項目を削除する

538.97 宇宙医学、宇宙食、宇宙服  
「宇宙医学」については498.44に収める。参照を削除する

544.49 電力設備(新設項目)

549.98 粒子加速装置  
この項目は採用せず、429.2に収める

559.22 誘導弾、ロケット弾  
この項目は採用せず、559.5に収める

566.6/576.8 溶接:融接、圧接/塗料、塗装  
これらには一般的なもののみを収め、特定目的のものについては、それぞれの主題のもとに収める

## 6 産業

610.12 農学史(新設項目)

611.38 国際食糧問題、輸出入食糧  
「輸出入食糧」については678.5を採用する

611.48 農産物貿易・関税  
この項目は採用せずに、678に収める

674 広告、宣伝  
\*の注記は採用しない

675 マーケティング  
\*の注記は採用しない。個々の商品の流通については、それぞれの主題のもとに収める

## 7 芸術

720.8 叢書、全集、画集<一般>  
個々の様式、個人の画集などは、それぞれの主題のもとに収める。ただし、全集以外で複数の様式にまたがるような画集や図録などは720.87のもとに収める

723 洋画  
一国の絵画史については723.1/.7に収める

746 特殊写真  
それぞれの専門分野におけるものはそれぞれの主題のもとに収める

## 8 言語

802.9 言語政策(新設項目)

823.4 故事熟語辞典、慣用語辞典[中国語](新設項目)

833.9 隠語辞典、俗語辞典[英語](新設項目)

891.09 ギリシア先住民族の言語(新設項目)  
ミノア文字はここに収める

## 9 文学

文学作品は、その作品の原作が書かれた言語によって分類する。ただし、一つの作品で二つ以上の言語で書かれた場合には著者の常用語とする。

シナリオ等を小説化したものについては小説として分類する。

小説を戯曲化したものについては、戯曲として分類する。

文学を材料に、特殊主題を研究したものについては、それぞれの主題のもとに収める。

作家の自伝は、その作家の作品のもとに収める。

文学批評に対する評論、研究等は文学史に収める。

920.28 伝記・作家論[中国文学](新設項目)

## NDC補助表

形式区分[共通細目]

-031 書誌、文献目録、索引

抄録、抄録集は、この記号を使用する。ただし、「抄録、抄録集」という書名を持っていても、書誌として扱えないものについては使用しない

-04 論文・講演集、評論、エッセイ、シンポジウム、随筆、雑著  
「随筆」「雑著」については使用しない

-049 随筆、雑著(新設項目)

-072 特許、規格(新設項目)

## 地理区分

-031 古代ギリシア

-032 古代ローマ  
これらについて、必要に応じて地理区分として使用する

## 「目録情報の基準運用細則」作成検討部会の審議内容

### 「目録情報の基準運用細則」作成検討部会 第4回打ち合わせ(調整作業班による)

日時：平成5年12月21日(火)10:00～17:00

#### 1. 「図書書誌レコード新規作成基準(親書誌)」について

前回の部会の審議結果を盛り込んだ修正案に基づいて審議を行い、全体的な語句の見直し等が了承された。今回の部会の審議結果を盛り込んだ案を各委員宛に送付し、BBSに意見を寄せてもらう予定になっている。

#### 2. 「遡及入力指針」について

前回の部会の審議結果をふまえて作成された原案に、総合目録小委員会やBBSで出された意見を参考に修正を加えたものをもとに、審議を行った。データをRECONファイルではなくNCファイルに登録すること、旧目録規則による目録カードから入力する際の注意点について、事例を挙げて説明すること等が了承された。今回の部会の審議結果を盛り込んだものを各委員宛に送付し、意見をBBSに寄せてもらうことになっている。

#### 3. 「著者名典拠レコード新規作成基準」について

前回の審議結果をふまえた修正案と、BBSに寄せられた意見をもとに意見交換を行った。審議結果をまとめたものを各委員宛に送付し、再度検討してもらうことになった。

#### 4. 「和図書書誌レコード」について

「和図書書誌レコード」記述部分に関して、どのような形でマニュアル化するかについて、メモと試案をもとに意見交換を行った。次回の部会で、改めて試案をもとに検討を行うことになった。

その他に、前回の総合目録小委員会での審議結果をもとに、コーディングマニュアルの構成の見直しについて、意見交換を行った。各項目に項番を付すこと等について次回より検討することになっている。

# 「目録情報の基準運用細則」作成検討部会 第5回打ち合わせ(調整作業班による)

日時：平成6年1月26日(水)10:00～17:00

## 1. 「遡及入力指針」について

前回の部会の審議結果を盛り込んだ修正案に基づいて審議を行った。入力を行う際の、目録カード等の遡及データと総合目録データベース中のレコードとの同定作業について、留意すべき事項を挙げて説明すること、また各目録規則の記述の第1水準を満たすもののみを入力できるように定めること等が了承された。

今回の審議結果をまとめた案を各委員宛に送付し、再度検討してもらうことになった。

## 2. コーディングマニュアルの構成について

メモをもとに、コーディングマニュアルの構成の見直しについて意見交換を行った。各項目に項番を付すこと等について、スケジュールを含めてセンター側で検討することになった。

## 3. 「著者名典拠レコード新規作成基準」について

前回の部会の審議結果やBBSに寄せられた意見を盛り込んだ修正案に基づいて、審議を行った。今回の審議結果をもとに最終案が作成されることになっている。

## 4. 「図書書誌レコード新規作成基準(親書誌)」について

前回の部会の審議結果を盛り込んだ修正案に基づいて審議を行った。新規に書誌レコードを作成する根拠となる場合とならない場合について、各フィールド毎に再度検討した。今回の審議結果をもとに最終案が作成されることになっている。

## 5. 「和図書書誌レコード」について

「和図書書誌レコード」記述部分に関する全体の方針や、具体的な構成の内容について、試案をもとに意見交換を行った。個々の項目について、「目録情報の基準」の解説と、各目録規則との対応についての説明、及び事例を含むものを作成する方向で、検討していくことになった。